

酒々井町

郷土研究会会報

第138号

平成22年10月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

植生のあゆみ

大沢 博

植物も人類の暮らしと同様に有史以前から固有の植生を持ちながら生きてきた。

かつて、デンマークの沼地で発見された鉄器時代(弥生時代)の人の「胃」の中に、穀物とは別にナズナ、ハコベ、ソバカズラなどの草の種が見つかつたという考古学者の報告があつた。人類がかなり古い時代から、これらの野草を食用、薬用として食べていた証しである。

日本では、植物名が書物の中に初めて現れるのは「万葉集」である。歌に詠まれている植物は一五〇種余であり、その中に野草類が八一種含まれている。よく知られているのは、ハギ、オバナ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、アサガオ(キキョウ)の秋の七草である。その他に、アシビ、ヤナギ、カツラ、ウメ、

サクラ等の樹木類も含まれている。また、春の七草を食べる習慣もこの頃に始まったのではないかと言われている。

このように、太古の昔から人と植物の関わりは深く、常に生活と密着して共存してきたものと思われる。そして幕末から明治になると、諸外国との交流が盛んになり外来植物が一挙に増えた。

この北総台地は、かつて江戸幕府直轄の野馬牧場があつたところであり、広大な原野が続いていたが、明治に入って天皇の御料地となつた。そして、欧米から農耕技術者を招き農牧の振興を図つてきた。この頃に、諸外国から肥料や牧草、野菜の種など盛んに輸入されるようになり、それに混じつて色々な雑草が入つてきた。やがて環境にあつたものは、徐々に勢力を広げ、全国各地に広まってきた。現在、北総台地では、七〇

から八〇%が外来帰化植物ではないかと言われている。明治の初めに入つてきた代表的なものは、ヒメムカシヨモギ、オオイヌノフグリ、シロツメグサ、マツヨイグサなど八〇%位あると言われている。

ここで雑草、野草について触れておくと、「雑草」とは、畑や水田に馴染み、多量のチツソ肥料がないと暮らせないものを、即ち農耕地と離れて暮らせないものを農学上は雑草と呼んでいる。しかし近年、人が管理している庭や公園、道路などに暮らす草も雑草に含めて考えられている。「野草」とは、人の手の入らない自然の中に暮らす草である。しかし、実際には区分が難しいものがあり、一般的には、雑草、野草を含めて「野草」と呼んでいる。

また、酒々井町の町花であるスイセンのようにルーツを調べると面白い植物が沢山ある。スイセンは、もと地中海沿岸が原産の植物である。長い年月を経てシルクロードから中国大陸を渡り日本へやってきた植物である。地中海沿岸特有の夏寒く冬比較的暖かい気候の中で育つた植生は今でも変わらず、夏の間は土

から八〇%が外来帰化植物ではないかと言われている。明治の初めに入つてきた代表的なものは、ヒメムカシヨモギ、オオイヌノフグリ、シロツメグサ、マツヨイグサなど八〇%位あると言われている。

の中にいて、冬になると花を咲かせる
特異な体質を持ち続けている。

このように、植物たちも地球規模で
生態移動を繰り返し、神秘的な活動を
永遠に続けていくものと思われる。

心が落ち着く名刹めぐり

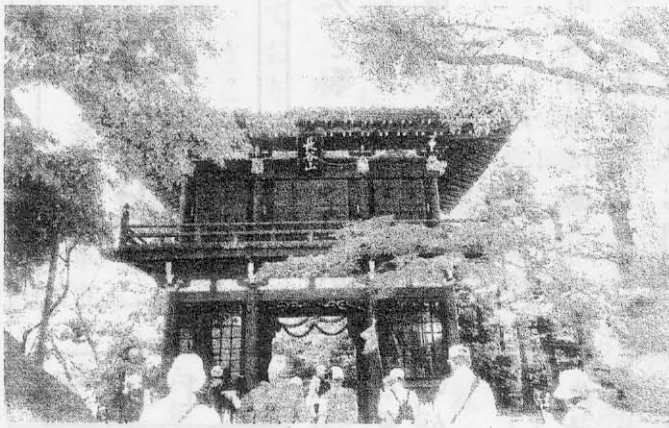
吉岡 秀子

以前から一度は訪れてみたいと思
っていた松戸の本土寺。アジサイの
有名なお寺さんでアジサイ寺として
親しまれ、鎌倉の明月院に対し「北の
鎌倉」と言われていたそうです。それ
に日蓮宗の本山で由緒あるお寺さん
だったと知りました。残念ながら、
アジサイは春の天候不順で開花が遅
れており、見事な花を見せてくれま
せんでしたが、源氏の平賀家の屋敷
跡だけあって境内は広く自然の地を
利用して築山のようになっていたり、
池があったりと散策するのにとても
良い公園になっておりました。

小金方面は江戸時代の小金三牧が
あったところで、牧にはわが郷土に
も大変つながりがあり野馬奉行の綿
貫氏のお墓などもあり親近感が持た
れた一日でした。
今の世の中お寺さんだからと勝手

にお参りすることが難しく、保育園
もあるので防犯に神経を使っている
せちがらい世の中を垣間見たりもさ
せられました。

私は富里市からですが、郷土研に
初めて参加させていただきました時に、
なんと丁寧で、もの静かで説得力の
あるわかり易い説明に感心させら
れ入会させて頂きました。そして
ら、皆さん部外者だからという概念
はさらさらなく、とても優しく親切
な人ばかりで、酒々井町の住民性に
家族一同好感を持ち感謝致してい
るところです。これからも温かい皆



本土寺仁王門

さんとご一緒させて頂き少しでも
自分を磨き勉強できたらと思つて
おります。

隣町からですがよろしくお願
いいたします。有難うございました。
お礼申しあげます。

《観察メモ》

ミソカクシ (キキョウ科)



溝隠しは別名アゼムシロ (畔むし
ろ) 日本各地の田の畔や湿地に生え
る多年草です。溝を隠すほど繁茂す
ること、畔にむしろを敷いたように
広がるなどが名前の由来です。

花期は六月から九月。花冠は白色
に淡紅紫色を帯び一センチほどで
深く五裂して扇を広げた様がかわ
いらしい。園芸種「ロベリア」に似
ています。酒々井でもこの夏、尾上
で確認できました。県評価による保
護留意植物とされています。

白井城跡周辺を散策して

前田 國廣

文明十一年(一四七九)太田図書、千葉自胤との戦い。永禄九年(一五六六)上杉謙信との戦いが行われた白井城とその周辺を散策しました。

京成白井駅南口から一夜城公園を指して出発する。駅から五分も歩くと住宅街の中に一夜城公園があり、その一角に高さ五メートルはありそうな「謙信の一夜城の由来」の石碑がある。永禄九年に白井城を謙信が攻める時に造った城で、今では遺跡は全く残ってはいない。私が感じたことは、これから行く宿内砦にあまりに近いことだ。これでは原氏方も上杉氏方も非常に緊張状態だったのではないかと思った。

白井駅に戻り北口に出て、マンシヨンの脇を通り抜けると石段が見える。七八段の石段を登り少し歩くと宿内公園入口に着く。「宿内砦」は白井城の砦としては唯一現存している砦で、郭・土塁・櫓・空堀の跡が残っている。砦としては大きいと感じた。

郭の北の方から下りると中腹に墓地があり、そこに道誉上人の墓である五輪塔と無縁塔がある。道誉上人は今の大阪府に生まれ、成田山不動尊で二一日間の断食を行い、天文二十年(一五五一)生実城主原胤清の招きにより、千葉市にある大蔵寺の開山を行い、のち増上寺九世の貫主になる。墓を下って右手に進むと道誉上人が開山した長源寺に出る。「龍沢山長源寺」は阿弥陀仏如来を本尊とする浄土宗のお寺で千葉大蔵寺の末寺になる。地藏尊、百万遍念仏塔などあり、また白井小学校発祥の地であり、村役場がおかれていたとのこと。

長源寺を出て国道二九六号線を横切り白井小学校にぶつかる左に曲がり、右に曲がり、左に曲がると江戸時代の延享四年(一七四七)に造立された「阿多津の碑」に出る。

正和三年(一三一四)白井城主の白井祐胤の死後、後見人の叔父志津胤氏によって竹若丸の殺害が企てられた時、乳母阿多津が察知し、岩戸城主岩戸五郎胤安の協力を得て鎌倉に逃げますが、それを知った志津胤氏に、印旛沼の葦原に隠れていた阿多津が、咳をした為捕われて殺害されてしまいました。村人はこれを哀れみ、祠を建てて阿多津を祀ったといわれています。

います。現在は石碑が斜めに寝ており一層哀れさを感じました。その後、白井城の前を通り過ぎて、すぐ前の土手の上にある文明十一年の戦いで討死にした「太田図書の墓」にお参りして白井城に行く。

白井城からの印旛沼の眺めは素晴らしい。その当時は印旛沼の水も今よりは綺麗で、水辺も城の近くまでできていたと思われる。しばし眺望を楽しむ。



白井城からの眺め

白井信斎と円応寺の住職宗的が、北宋の瀟湘八景にならって、元禄十一年に白井八景として選定した景勝の地である。

◎白井八景

◎舟戸夜雨

◎遠部落雁

◎飯野暮雪

◎師戸帰帆

◎瀬戸秋月

◎城嶺夕照

◎光勝晚鐘

◎洲崎晴嵐

◎瑞湖山円応寺

雨の夜の舟戸の情景。

冬の夕暮れ、木々の繁る飯野の丘に降り続く雪の情景。

夕暮れ時、帆船が凧いだ水面を対岸の師戸へと帰って

静かな秋の夜、遠い対岸の瀬戸に月が輝く。水面の月影は流れるかのよう。

白井城の廃址を照らす落日の情景。

夕刻を告げる光勝寺の鐘の音が、一帯に響き渡る。

露が払われて晴れわたった洲崎台の静かな情景。

（佐倉市教育委員会文化課資料から抜粋）
しばし情景を想い浮かべる。休憩後、本丸北側より降りて円応寺に向かう。

「瑞湖山円応寺」は釈迦牟尼仏を

本尊とする臨濟宗妙心寺派のお寺です。暦応元年（一一三三）に白井興胤により創建されたといわれています。お寺の左に、白井氏と岩戸胤安の墓があります。寺紋は月星紋です。永久二年（一一一四）頃、千葉常兼の子常康が白井郷開発の為に赴任した場所は、この円応寺のあたりとの説があります。

これで一応散策は終わりますが、時間と体力と興味がある人は、白井八幡社、川口宗重の墓、稻荷神社の力ヤ、雷電の墓など見学されるのも良いでしょう。

高崎川流域の水草
探検隊に参加して



野草部 大沢・犬島

県の河川環境課では、平成十六年から印旛沼に注ぎ込むすべての河川について、水草の調査（水草探検隊）を行っており、今回の高崎川が最後の調査ということであった。

印旛沼流域は、昭和三十六年頃から開発工事が進み、きれいな印旛沼が少しずつ失われ生態系も大きく変化してきた。

今また、きれいだった頃の印旛沼に戻そうという取り組みが始まっている。水草探検隊もその一つとして、重要な役割を期待されている。

七月二十一日、三五度を超える猛暑の中、小学生十数名を含む六〇余人で、高崎川流域の調査を行った。私達は中学校裏の酒々井インターチェンジの工事現場付近から墨入口の大川戸橋までの支流、本流を担当した。

県の担当者からは、水草に限らず自然の中で見つけたものは、全て調査・報告の対象と言われ、昆虫や小動物の確認も行った。

終了後は、報告会が行われ、私達の班でも、水草のオオカナダモ、エビモ、ミゾカクシ、ヘラオモダカ等の外、雉のつがいやオニヤンマ、ササエビ、カワニナ、ヒキガエルなども見つけ約五〇種を確認、報告した。

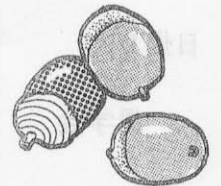
調査結果は、印旛沼流域の水草マップとして県でまとめることになっている。

私達の生活に密着したこの印旛沼をどうしたらきれいにできるか、小さな事でも出来る事から始め、未来のあなすべき姿に向けて行動をおこす、そんな必要性を痛感した一日でした。

見学案内

日帰り見学会

関宿方面



十月六日(水) 雨天決行

関宿は利根川と江戸川が分かれる河岸(港)として、また「日光東往還」の宿場町として栄えたところ

関宿城はおよそ五〇〇年前に築田成助が築き、関東平野のほぼ中心にあるので戦国時代には「関宿を支配することは一国を支配することと同じ」と言われるほど重要な場所でした。

明治の初めに城は取り壊されてしまいました。資料や遺品をもとに昔を偲びたいと思います。その後、終戦時の首相を務めた鈴木貫太郎記念館を訪ねて帰途につきます。

名勝探訪

中山方面

雨天代替日 十二月一日(水) 十二月十日(金) 京成中山駅から両側の土産物屋



関宿城博物館

や八百屋のある参道を歩き、黒門をくぐりまっすぐ進むと正面に赤門が見えてきます。この辺りは整備されてきれいです。赤門をくぐると両側には小さい寺院が並んでいます。大本山法華経寺を参拝して広大な境内を散策しましょう。また、東山魁夷記念館では、絵画の解説を受けながらゆっくりと鑑賞できると思います。自由昼食をとって解散となります。年の瀬ですので早めに家路に着きましょう。



あとがき

今年の夏は例年にない猛暑が続き、熱中症でたくさんの方が亡くなるなど、気が滅入る毎日でした。異常な高温や低温、強い台風や集中豪雨、干ばつや森林火災による災害が世界各地で頻発しています。こうした異常気象は地球温暖化が影響しているようで、これから先どうなるのか心配です。郷土研も最終の四半期を迎え、最後の会報をお届けする運びとなりました。今期の主な行事として「関宿方面」への日帰り見学会、「中山法華経寺と東山魁夷記念館」の名勝探訪など計画しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

< 郷土研日誌 >

月日	活動内容	参加者
6. 27	会報印刷	6
6. 29	会報発送(第137号)	15
7. 3	史談会(成田参詣記⑧)	21
7. 10	地域デビュー相談会	2
7. 14	「酒々井町の自然観察」講師派遣	2
7. 20	研究会	16
7. 23	「野草観察会」講師派遣	2
8. 17	郷土史講座準備打合せ会	13
	広報部部会(会報第138号)	6
8. 27	運営委員会	17
	「野草観察教室」講師派遣	2
8. 28	町主催史跡ウォーキング下見	9
8. 29	郷土史講座	60
8. 31	野草観察会(菊賀神社周辺)下見	4
9. 3	会報編集会議	6
9. 4	史談会(成田参詣記⑨)	20
9. 7	会報編集・読合せ	5
9. 9	野草観察会(菊賀神社周辺)	13
9. 10	会報編集・読合せ	4
9. 15	名勝探訪(品川宿方面)下見	4
9. 16	会報編集・読合せ、校正、割付	5
9. 17	名勝探訪(品川宿方面)	35
9. 21	研修会	13
	会報編集・割付、校正	5
9. 24	「野草観察教室」講師派遣	2
	会報編集・最終校正	5

郷土研行事案内

平成22年10月～12月

史談会	10 月 2日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」 ⑩ 講師：高橋健一先生	11 月 休 講	12 月 4日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」 ⑪ 講師：高橋健一先生
日帰り 見学会	<p>「関宿方面」</p> <p>10月6日(水) 町バス利用 雨天決行 (問合せ 7:20～7:50 寺本まで)</p> <p>参加人数 33名 参加費 1,300円(昼食代・入場料等を含む)</p> <p>集合時刻・場所 8:45 中央公民館脇広場 コース 中央公民館—関宿城博物館—〈昼食〉—鈴木貫太郎記念館他—中央公民館 16:00頃 帰着予定 (場合によっては、コースに変更あり)</p> <p>◀申込受付▶ 10月2日(土) 9:00～10:00 中央公民館ロビー</p> <p>* “お報せ” から “申込受付” までの期間が極めて短くなってしまったことをお詫びします。</p>		
名勝探訪	<p>「中山方面」</p> <p>12月1日(水) 雨天代替日 12月10日(金) (問合せ 7:00～7:30 寺本まで)</p> <p>参加費 100円 別途、交通費・入館料等が必要です。</p> <p>集合時刻・場所 8:20 京成酒々井駅改札口前(階段上) コース 京成酒々井駅—船橋駅(普通電車に乗換え)—中山駅…中山法華経寺 …東山魁夷記念館〈解散・自由昼食〉—京成酒々井駅 (場合によっては、コースに変更あり)</p>		

郷土研トピックス!

- ★ 今年の『郷土史講座』は、千葉市立郷土博物館の築瀬裕一氏を講師にお迎えし、「千葉市の戦国時代城館跡」という演題でご講話をいただきました。現在の千葉市域には、約70ヶ所の中世遺跡がある。その中核となる城館跡は、主として千葉堀内、生実・浜野、土気の三地域に分布し、それぞれに独自の歴史的世界が展開している。発掘した遺構や出土遺物そして各地の古文書等からは、千葉市の戦国時代の情報が数多く齎されている... 等々、興味溢れる内容でした。記録的な猛暑のなかにも拘らず、会場満杯となる盛況ぶりでした。(開催日：8月29日)
- ★ 10月から始まる公民館主催講座「酒々井を知ろう」に、郷土研から会長及び副会長が講師として参加します。
- ★ 「平成22年度酒々井町史跡ウォーキング(史跡めぐり及び本佐倉城検定)」が実施(10月24日)されますが、当郷土研メンバーも史跡案内を担当する予定です。
- ★ 泉光院(墨)の「オハツキイチョウ(御葉付き銀杏)」(会報第134号登載)に、案内看板が建てられることになりました。町教育委員会、匠の会及び郷土研の三者共催で、10月中にも設置される予定です。